

# タイ・泰緬鉄道巡り慰霊の旅

## 永瀬さんたたえる銅像

元留学生らが資金出し建立

【カンチャナブリー県(タイ西部) 〓福永正樹】第2次世界大戦中、徴用された捕虜や周辺住民ら約10万人が犠牲になったとされるタイの泰緬鉄道建設で、戦後、慰霊や現地の教育、医療に貢献してきた旧日本陸軍憲兵隊通訳の岡山県倉敷市、英語塾経営永瀬隆さん(87)をたたえる銅像が、カンチャナブリー県のクワイ川河畔に建立され、19日に除幕式が行われた。招待された永瀬さんは「像が建つたことで、私の魂は永遠にこの川を見守ることができ

ます」と感謝の言葉を述べた。

当時、タイとビルマ(現・ミャンマー)を結んでいた同鉄道は、建設時の重労働による死者の多さから「死の鉄路」と呼ばれ、映画「戦場にかける橋」の舞台にもなった。

敗戦で帰国する際、永瀬さんはタイ政府が支給してくれた飯ごう一杯のコメの恩が忘れられず、「罪の償いに」とこれまで120回以上、慰霊の旅を重ねた。

1986年には「クワイ河平和基金」を設け、子供に



除幕された自分の銅像を見上げる永瀬さん(左、現地時間19日午前9時45分、タイ・カンチャナブリー県で)